

## 緩和ケア部会でのPDCAサイクルを用いた相互評価について

ホームページを御覧の皆様へ

福島県がん診療連携協議会緩和ケア部会では、福島県内のがん診療連携拠点病院等が集まり、緩和ケアの質の向上のために必要なことについて協議しました。

○ 日時

平成27年8月1日（土）13:30～14:30

○ 場所

福島県立医科大学会津医療センター

○ 参加者

福島県立医科大学 医師2名、看護師1名

会津医療センター 医師1名

総合磐城共立病院 医師1名

坪井病院 看護師1名

白河厚生総合病院 看護師1名

竹田総合病院 医師1名、看護師1名

総合南東北病院 医師1名

太田西ノ内病院 医師1名

福島労災病院 看護師1名

会津中央病院 医師1名

福島赤十字病院 医師1名 他

テーマは、厚生労働省の関係の通知から「緩和ケアに新たに求められていること」を選びました。

手法として、PDCAサイクルを用いることとし、以下の①から③により実施しました。

①各拠点病院があらかじめ準備した自己評価シートに甲乙丙丁の4段階の評価により記入する。

②各拠点病院が記入した自己評価シートを相互評価一覧表にまとめる。

③当日参加者が一堂に会して相互評価一覧表をみながら意見交換を行う。

当日は主に、「優れていることを自施設の参考にしたいので具体的に聞きたいもの」「改善が望まれることをどのようにしていくべきか参考にしたいもの」等について意見交換を行いました。

この情報をもとに各病院で改善を実施してまいります。

以下は、意見交換の要旨です。

県立医大病院：苦痛のスクリーニングの試行を開始した。医師が病状を説明する際に看護師が同席することを進めているが、診療科間に格差があり全体としては不十分と考えられる。看護師によるカウンセリングは一部の診療科で行っているが、やはり全診療科に行き渡っていない。医療用麻薬の自己管理は病院全体で、希望者で条件を満たす患者に対して5年前より行っている。安全管理部介在のワーキングで決定し実施している。医療用麻薬の初回処方箋は診療科間の格差があったが、徐々に差が小さくなっている。リンクナースの育成も配置もまだである。次年度行う計画である。

坪井病院：緩和ケア外来は、予約制をとって行っている。治療方針計画書を医師が作成し、緩和ケアの実践と普及に取り組んでいる。

太田西ノ内病院：患者や家族に対する病状説明は医師が単独で行っている状況である。診療科医師が緩和ケアチームへ依頼を出す場合には、もちろん紹介状は必要であるが、チームの早急な介入が優先されるという考えのもとに活動している。

総合南東北病院：患者や家族に対する苦痛のスクリーニングは行っており、適切に症状緩和が可能な体制を整備している。患者や家族に対する病状説明において、看護師は同席していない状況である。緩和ケアチームの体制としては、多職種カンファランスや病棟回診を行い、各所属にリンクナースを配置している。現在のところ、精神症状の緩和に携わる専任医師はいない。

白河厚生病院：患者に対する苦痛のスクリーニングは全病棟で実施しており、外来においては実施していない。スクリーニングシートは紙ベースで行っており、その記載は患者よりも看護師あるいは、家族が行うことが多い。スクリーニングの結果は、電子カルテのテンプレートに入力を行っている。スクリーニングの件数は、入院ごとに行っており、月60件程度である。緩和ケア認定看護師は、該当となった患者を回診している。患者や家族に対する医師からの病状説明に対しては、認定看護師が同席できる旨について、関わる認定看護師が各診療科をラウンドしながら周知している。患者の状況によっては、看護カウンセリング（面談）を行うため、その記録時間まで含めると多くの時間を要し

てしまうこともある。

竹田総合病院：痛みのスクリーニングは7月中旬から開始している。はじめに外来化学療法室と緩和ケア外来から行った。当初、化学療法室からは3名の患者のシートが提出された。外来の患者となると人数が多くなるため、どの程度の数となるのかは予測できない。懸念するところである。当院では臨床心理士が2名いるが、多忙にて関わるのが困難である。

会津中央病院：現在スタッフ不足が課題となっている。身体症状、精神症状緩和を専門とする医師が不足している。今後は、専門的看護師の配置に関しても改善が望まれる。身体症状緩和医師の病棟回診や緩和ケアカンファレンスへの参加に関しても同様に改善が望まれる状況にある。

福島労災病院：痛みのスクリーニングを外来患者に対して始めた。医師が患者に配って記入してもらおう。多くの患者が必要としているが、スクリーニングシートを配布できたのはまだ少数である。病棟患者に対してはこれから開始する予定である。認定看護師は専従が2人いるので、看護カウンセリングを準備しているところである。当院での緩和ケアの診療方針を文書で提示する予定である。リンクナースは育成中である。

磐城共立病院：痛みのスクリーニングは改善が望まれる。緩和ケアを提供する体制は満たしている。専門的看護師の配置と、精神症状緩和医師の配置は十分満たしている。

#### ○ 語句説明

- 1 がん診療連携拠点病院とは、質の高いがん医療の全国的な均てん化を図ることを目的として厚生労働省が指定する病院です。本県では、都道府県がん診療連携拠点病院として、福島県立医科大学附属病院が、地域がん診療連携拠点病院として坪井病院・太田西ノ内病院・総合南東北病院・福島労災病院・総合磐城共立病院・竹田総合病院・会津中央病院・白河厚生総合病院が指定を受けています。
- 2 福島県がん診療連携協議会とは、福島県内のがん診療連携拠点病院の円滑な推進を図るための協議会です。協議会の下に部会を設置し、緩和ケア部会はそのひとつです。
- 3 P D C A サイクル (PDCA cycle、plan-do-check-act cycle) とは、事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つで、Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するものです。